

図書 紹介

感染症

著者 井上栄 (国立感染症研究所名誉所員)

発行：中央公論新社 / 〒104-8320 東京都中央区京橋 2-8-7 / 03-3563-1431 (販売) /

03-3563-3668 (編集) / A 6判 / 208 頁 / 価格 740 円 (税別) / 2006 年 12 月 20 日発行

著者・井上栄氏はこれまで上梓された「文明とアレルギー病」や「感染症の時代」(ともに講談社)で、独自の感染症論や制御対策を提案されてきた。本書はそれらの延長線上にあるものだが、更に具体的で優れた提案が多くなされている。人の意表をつくユニークな見解が披瀝されているので、最初は「本当かな」首を傾げてしまう。しかし、落ち着いて考えてみると、井上氏の説明は極めて論理的で、最後は「全くその通りだ」と納得してしまう筆力がある。

例えば、2003年に中国、シンガポール、台湾、ベトナム、カナダなどで8000人以上のサーズ患者が出ているが、日本人の感染者はゼロであった。日本人が世界各地で活躍しているにもかかわらず、このサーズ騒動で患者ゼロであったことは「幸運な偶然」に片づけられていた。しかし、井上氏によれば、日本人の生活習慣を考えれば、決して偶然でもなければ、意外なことでもない。本書を一人でも多くの方に読んでいただきたいと思うが故に、ここでは敢えて井上氏の説明を紹介しない。単に、微生物学と衛生学に関する極めて重要な事項が説明されていることだけを、強調しておきたい。

本書は以下の6章から構成されている。

第一章 病原体の伝播経路を知る

第二章 清潔化の歴史

第三章 清潔社会で起こる感染症

第四章 世界のなかの感染症

第五章 新型インフルエンザ

第六章 エイズ性感染症

上記の日本人からサーズ患者が出なかった理由は、第一章に分かりやすく説明されている。第二章では感染症制御における上下水道の完備や、消毒の重要性が例を挙げて、分かりやすく解説されている。併せ

て重要感染症流行の歴史も述べられている。第三章ではノロウイルスやO157の感染ルートなどの説明をするとともに、疫学者を養成することの重要性を強く訴えている。海外の感染症をテーマとしている第四章ではBSE問題も取り扱っている。第五章と第六章はタイトル通り、新型インフルエンザとエイズや性媒介感染症が主題である。

致死率60%以上といわれる新型インフルエンザ対策として、我が国でもワクチンの開発や抗インフルエンザウイルス薬・タミフルの備蓄が進められている。しかし、井上氏は新型インフルエンザ対策には、費用対効果を考えると、患者全員に薄いマスクを無料で提供することが、最も良いのではないかと述べておられる。同時に、井上氏らが行った、薄いマスクの感染防止効果に関わる実験も紹介されている。反対意見もあろうが、井上氏の意見は十分に傾聴に値すると思う。また、エイズや性媒介感染症の予防のためにも、ピルではなくコンドームを使うべきだという主張も十分に説得力がある。

井上氏は国立感染症研究所・感染症情報センター長などを勤められた感染症学や公衆衛生学の専門家である。しかし、単なる医学者に止まらぬ、多才な知識を持つ博物学者でもある。科学が細分化された今日、こうした人は貴重なはずだ。博物学者としての著者の知識が、本書を極めて魅力的なものにしている。医学、生物学、薬学、獣医学などに関係される方々に、是非とも読んで欲しい本である。

((独)医薬品医療機器総合機構 三瀬勝利)